

ホタルといえば、初夏の夜の風物詩。しかしホタルが見られる水辺は、昔に比べ、ずいぶん数を減らしている。姫路の街を流れる船場川も、ホタルが消えた川の一つ。そこで立ち上がった地元の人々の手で、ホタルを再び呼び戻そうとする動きがある。

### 暮らしの 身近にいたホタル

ホタルの成虫は、10日前後で死ぬという。はかない命を燃やすかのように美しい光を放つその姿が日本的なもののあわれに通じることもあって、詩歌や文学の題材に取り上げられることも多く、夏の風物詩として親しまれてきた。

昔は、近所の小さな流れやため池の近くなどで、普通に見ることができたホタルも、きれいな水や水際に生える植物など、いくつかの条件を失うと姿を見せなくなってしまう。

姫路でも、田んぼが減り、川や用水路がコンクリート化されるなど都市化が進む中で徐々に数が減少。子どもはもちろん大人の中にも、実際にホタルを見たことがないという人が多いかもしれない。国内にホタルは50種類ほどが生息。ゲンジボタルとヘイケボタル、

ヒメボタルが代表的な種類だ。3種類の中で最も大きいのがゲンジボタル。日本固有のホタルで、条件さえ整えば一般的に見ることが出来る。

ヘイケボタルは、湿地などにいるホタル。ヒメボタルも日本固有のホタルで、ゲンジボタルやヘイケボタルよりも一回り小さく、水辺から少し離れた谷間などに生息している。



日本では50種のホタルを見ることが出来る



市内で見られる代表的な場所

# ホタルふたたび 船場川

初夏の夜

ちよじとお出かけ

## もう一度、

## 船場川にホタルを

姫路城の西側を流れる船場川。「こんな街なかでホタルが？」と意外に感じる人も多いだろうが、「千姫の小径」と呼ばれる遊歩道のあたりは昔、ホタルがよく見られたという。

しかし昭和の終わりに船場川はコンクリート化。ホタルが住める環境ではなくなってしまった。その場所が現在、再びホタルを呼び戻す活動に取り組む人々がいる。活動に取り組んでいるのは、城西地区連合自治会の皆さん。同会

長の岩成孝さんが2005年、地元町の自治会から協力を得ることで始まった取り組みだ。2006年以降は連合自治会を中心に活動の輪を広げ、より多くの人々が取り組みに参画するようになった。

主な活動は、船場川にホタルが住める環境を取り戻すこと。水の流れを妨げる水草や藻を取り除く清掃活動をはじめ、多岐にわたる活動へ力を注いでいる。土手の上部にはアジサイを植え、アジサイは、ホタルの幼虫や成虫が苦手な街の明かりを遮ってくれる。

「防犯灯の明かりを遮断してやるのが最も苦勞の種」と岩成さん。下部にはコクマザサやツワブキ、リュウノヒゲを植えることで、ホタルが住みよい環境を作りだしている。

地元小学校では、復活したホタルを地域学習の場として活用。姫路市の補助を受けて同会が作った



ホタルの幼虫を放流する城西小学校3年生(当時)の様子



千姫の小径に沿って流れる船場川

Fireflies again...  
Senba River

冊子を使い、3年生を対象にホタルの一生を通じて、環境について学ぶ機会を設けている。

また3年生は4月になると、ゲンジボタルの幼虫と幼虫のエサになるカワニナを川へ放流する。失われた自然の再生は難しいところだが、「川をきれいにしてよと思いましたが」という感想を聞くなど、学習は成果を上げつつあるようだ。雨上がりの夜、サナギになろうとする幼虫は、一斉に川から土手へ上がる。岩成さんは「幼虫が光る姿に初めて出会ったときは、見たこともない光景に感動したもので、すて振り返る。」

今年もその光景に出会える日が近づいている。一匹でも多くの幼虫がサナギへ、成虫へと姿を変えて川面に舞うことを祈りたい。

### いつまでも ホタルを 楽しむために

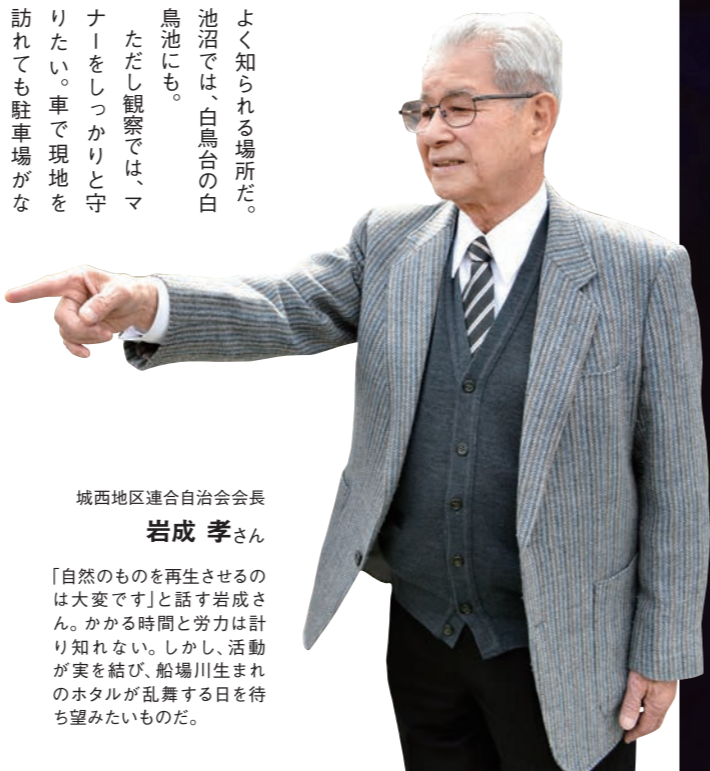
船場川のほかに、姫路城の周りでは野里門あたりの中濠で野生のホタルを見ることが出来る。郊外に目を向けると、安富町の林田川や夢前町の菅生川流域・バースタウンあたり、飾東町の思出川も

よく知られる場所だ。池沼では、白鳥台の白鳥池にも。

ただし観察では、マナーをしっかり守りたい。車で現地を訪れても駐車場がない場合が多く、無断での駐車や話し声などが迷惑になることを考えたい。

訪れる側にとっては「今夜だけ特別」というつもりでも、近隣住民にとっては「毎晩のこと」になる。また、ホタルが住む環境を壊さない配慮も大切。今は野生のホタルが生息している場所でも、環境を悪化させると将来は見られなくなるかもしれない。

さて船場川に話を戻そう。鑑賞会は例年通りなら、6月上旬。当日は、日が落ちる19時半から20時ごろになるとホタルが飛び始める。ホタルの光をよく観察できるようにと、会場近くの街灯は明かりを落とす。足下が暗くなるため、懐中電灯など持参すると安心だ。



城西地区連合自治会会長  
岩成 孝さん

「自然のものを再生させるのは大変です」と話す岩成さん。かかる時間と労力は計り知れない。しかし、活動が実を結び、船場川生息するホタルが乱舞するのを見たいものだ。

少しでも近くでホタルを観察できるように、川の上にはステージも組む。足場に立つと、川面へかざした手にホタルがとまることも。ホタルは人間が触れると弱ってしまいが、観賞会ではあえて触れらう機会を設けている。

「ホタルには迷惑かもしれないが、1週間ほどで死んでしまうものなら、子どもたちの貴重な経験になればと考えています」と岩成さん。「まだまだ船場川は、ホタルが住みやすい環境とはいえないが、いつかは住み着いてくれることを目標にして頑張りたいです」と意気込む。